

令和7年度八王子市立恩方中学校

学校経営報告



令和8年3月11日

八王子市立恩方中学校

校長 植田 恭正

1 令和7年度の取組目標と方策

(1) 安全で安心して過ごせる学校

- ① 人権尊重や生命尊重、教育相談の基盤に立った生徒に寄り添う生活指導を実践する。生徒のサインを敏感にキャッチ、組織として対応・保護者との連携を図る。
A 生徒が安心して生活できるために空白の時間（生徒のみで過ごす時間）をなくす取り組みを推進した。（教員を組織的に配置し、見守り・寄り添うことを日々実践した。）保護者との連携を密にし、担任を中心に学年・生活指導部・管理職も連携して対応した。保護者からの要望も真摯に受け止め、共通理解のもと組織的に対応することができた。
- ② 特別支援校内委員会・いじめ対策委員会・不登校対策委員会を毎週開催し、配慮を要する生徒の情報交換や対応を協議し各アンケートを活用した問題傾向の早期発見・早期対応・早期解決に努める。
→ いじめアンケート・いじめ防止プログラム1年生対象に行うSCによる面接・「おんちゅうLINE」・「こども見守りシート」・「相談できる大人の存在」などを活用
A 各委員会は毎週開催した。状況に応じて臨時の会を即時に設定し対応した。アンケート結果や今年度3名配置されたスクールカウンセラーとの連携を密にし、早期発見・早期対応に努め、相談できる大人としての役目を果たすよう努めた。
- ③ 不登校対応巡回拠点校としての取組を推進し、適切な支援を行う。
A 拠点校2年目として、充実した取組を実践できた。巡回校と連携を強化し計画的に取り組みすることができた。八王子市教育委員会不登校対策研究指定校として実践研究を推進した。次年度も継続して不登校生徒の減少に向けた取り組みをより一層実践する。
- ④ 毎朝の「黙想1分間」を実施し、静かな環境の中で一日をスタートさせる。
A 「黙想1分間」は全授業日に実施した。落ち着いた学校生活をスタートさせる良いきっかけとなっている。次年度も継続する。
- ⑤ 毎月行う「あいさつ週間」を通して、あいさつの定着を図る。部活動・委員会所属の生徒から全校生徒へあいさつを広める。
A 「あいさつ週間」は実施した。挨拶の習慣は生徒の内面にも影響しているため、日々継続した指導が必要である。社会性を身につけるよう継続する。
- ⑥ 登下校時の交通安全指導を教員・PTA・外部機関（警察・交通安全協会）と連携して行う。特に、自転車通学については、定期的に全教員が危険場所に立ち、通学路や交通ルールの徹底、ヘルメット着用について指導を行う。（分散下校の実施）
A 登下校の安全指導を関係機関と連携して取り組むことができた。朝礼を含め機会あるごとに安全指導を行った。自転車の乗り方のクレームは頻繁に寄せられているため、その都度の指導と計画的な指導を実施した。
- ⑦ 「安全指導について」の冊子を配布し、災害時（地震、火災、土砂災害など）の対応がスムーズに行えるように学校生活のさまざまな時間や状況を想定した避難訓練を実施する。
A 避難訓練及び安全指導は毎月実施した。事前通告なしの避難訓練や警察官が不審者に扮した不審者対応訓練・野生動物の侵入を想定した訓練も実施した。
- ⑧ 二者面談週間を2回実施し、生徒の家庭生活のようすや悩み、友だち関係、学習課題などの情報収集を行い、今後の生徒理解や生徒指導に役立てる。
A 計画的に二者面談を実施した。休み時間を活用した都度面談を実施し、生徒と信頼関係を深めることができた。

- ⑨ 全校生徒対象にQ-U検査を年2回実施し、クラスの状況をデータとして把握し、エンカウンターなどを活用して、適切な人間関係の構築に努める。（八王子市教育課題研究指定校）
- A Q-U検査の2回実施と分析を基に、エンカウンターを活用し適切な人間関係の構築に努めることができた。Q-Uの講師を3回招聘し、校内研修の充実を図った。要支援軍の見守りと適切な対応を実践し、経年変化からの視点も含め指導を行うことができた。
- ⑩ 特別支援教室拠点校と連携をとり、対象生徒への支援の仕方を検討する。
- A 特別支援教室拠点校と連携をとることができた。対象生徒のすべてに即時に対応することはできたが、計画的な支援をすることは不十分であった。
- ⑪ 情報モラル教育を推進し、SNSのルールを徹底する。また、セーフティ教室や薬物乱用防止教室を設定し、将来にわたる安心・安全な生活を意識させる。
- A 情報モラル教育は機会あるごとに指導を行った。SNSに関する生活指導は年々増加傾向にあり、指導内容が困難な状況になっている。家庭と連携が必須である。学校のみでSNSに関する指導は厳しい面がある。安全指導は計画的に実施した。
- ⑫ 危機管理体制を強固なものにするための教員研修を実施し、緊急時に備える。
- A 緊急時に備えた教員研修（AEDと心肺蘇生）を4月と11月に実施した。実践形式を取り入れ意見交換会も実施した。
- ⑬ 獣害対策を地域と連携し強化する。（登下校時の見守りと情報共有）
- A 獣害対策課や地域と連携し獣害動物への対応方法を研修した。また、校内への侵入も想定した訓練を重ねた。特に熊への対応は定まっていない。
- ⑭ 自転車運転免許制度を導入し、安全指導を強化する。
- A 恩方中自転車免許制度を導入し安全教育を推進した。自転車通学の指定範囲を解除した。
- ⑮ 時代に即した制服や校則の見直しを推進する。
- A 保護者の意見を取り入れ、制服や体操服の簡素化や指定品の廃止を推進した。今後は上履きや指定用品の見直しを進め、保護者の負担金を軽減させる。

（2）生徒が興味・関心・意欲をもって、授業を受けることができる学校

- ① 本校の授業規律を確認するため、4月に「決まり確認集会」を実施し、全教員、全校生徒に周知徹底する。その後も全校集会・学年集会・学級活動・授業など機会あるごとにきまりの確認を行う。
- （着席チャイム・忘れ物をしない・無断で教室を抜け出さない・始終のあいさつ私語の厳禁、授業中の立ち歩き厳禁、始め・終わりの時間厳守など）
- A 4月9日に「決まり確認集会」を実施した。全校生徒及び全教職員で確認し指導の徹底を図った。また、全校朝礼・生徒会朝礼では生活指導主任、学年集会では学年主任より確認を意図的に継続した。決まりを意識する生徒が増加した。
- ② 基礎・基本を定着させ、学力向上・習得目標問題の理解を目指すために「放課後基礎教室」・「英語検定対策」・「漢字検定対策」・「日本語検定」を学校運営協議会と協力し開設する。また、教員による朝・放課後の・定期テスト前の補充教室を充実させる。
- A 放課後基礎教室の運営に学校運営協議会と教職員が協力して実施をした。参加人数も会を重ねるごとに増加した。また、各検定を実施した。小学校の児童や地域の住民の方々も参加も増加した。放課後学習教室の参加者も増加し学習への意識が高まっている。

- ③ 「読解力向上」と「落ち着いた1日のスタート」のため、読書活動を推進する。
 A 朝の1分間の黙想と読書活動を設定した。落ち着いた一日のスタートが学期を追うごとに実践できている。次年度はモジュールとして国語の教育活動を取り入れる。
- ④ 東京方式ガイドライン（数学：習熟度別指導、英語：少人数・習熟度別指導）やアシスタントティチャー、学校サポーターを活用して、個に応じた指導の充実を図る。
 A 東京方式ガイドラインに沿った指導を継続できた。放課後基礎教室や補充教室を計画的に開設した。個に応じた指導を展開することができている。個別対応を可能な限り増やし、積極的に学習する習慣を身につけさせたい。
- ⑤ 生徒による授業アンケートを年2回実施し、教員はその結果を参考に、指導方法の工夫・改善に努める。
 A 授業アンケートは2回実施した。管理職の授業観察も毎日巡回し実施した。機会あるごとに管理職から教員へ指導を行うとともに、学期に1回定期面談を実施した。指導方法の工夫・改善に全職員が取り組んだ。
- ⑥ 夏休みと冬休みに課題（国語、数学、英語など）を出し、休み明けに確認テストを実施する。また、新1年生には、新入生説明会で課題（国語・数学）を出し、入学後の4月に確認テストを実施し、早い時期につまづきの把握に努める。
 A 定期テスト以外にもはちおうじっ子ミニマムや小テストを積極的に実施し、家庭学習の定着を目指した。テスト結果を分析し、授業改善に努めた。
- ⑦ オンライン配信を実施し、ミライシード・ロイロノート等の学習コンテンツの活用を通して、学習できる環境と内容を整備する。
 A オンライン配信を実施しているが、授業の様子を流すだけにとどまっている。効果的な配信を検討する必要がある。各種学習コンテンツの活用は実践している。

(3) 生き生きと自己実現できる学校（特色ある教育活動）

- ① 講師招聘（福祉体験・職場体験・職業選択・国際理解等）のキャリア教育を通して、働くことの意義や社会人としてのルールについて学ばせる。（はちおうじっ子キャリアパスポートの活用）
 A 恩方中の特色である外部講師の招聘を活用してキャリア教育を推進することができた。特に、体験活動は教育効果が高い。今後も継続して講師の先生方と連携し効果的な活動を推進する。
- ② 小中一貫教育の推進（恩方第一小学校、恩方第二小学校、元木小学校）と学期に1回小中一貫教育の日に取り組む。（合同研修会・授業参観と学習・生活指導・特別支援部会に分かれた研修会・小学校6年生対象に中学校教員による体験授業・同日引き取り訓練等）
 A 恩方中校区の4校で連携し小中一貫教育の推進を行うことができた。9年間を見据えた教育活動とSTEAM教育を視野に入れた共通の教育課程を作成し、実施に向け準備を進めることができた。
- ③ 中学校の学校保健委員会に小学校の養護教諭が参加し、小中学校の健康面での課題の共有と対策について情報交換を実施する。
 A 小中一貫教育の日を中心に恩方中校区の4校の養護教諭での連携を推進した。情報交換のみにとどまらず、9年間を見据えた個別指導を推進することができた。
- ④ 計画的に部活動を実施し、心身ともに健康な生徒を育成する。
 A 昨年度完了した部活動改革を推進することができた。各部活動での課題を精査し、新たな部活動として毎月の活動計画に基づき活動した。
- ⑤ 地域貢献の意識を高めるため、地域のボランティア活動に協力する。
 A 生徒会や部活動を中心に地域行事に参加し、貢献することができた。1年生の防災訓練、2年生の運動会への参加は生徒の満足度も高く自己肯定感が高まった。

- ⑥ 「部活動改革」後の課題である地域との繋がりを推進する。
A 地域とのつながりは継続中である。今後も全校体制で取り組む。
- ⑦ 保健衛生や食育についての学習を行う。
A 感染対策を含め保健衛生には十分注意を払い教育活動を実施した。「食育」は外部機関と連携し推進することができた。
- ⑧ 保護者・地域への教育活動の情報発信に努める。（各種たより・HP等）
A 学校行事ごとの情報発信に努めた。HPの閲覧数も増え、各学年の日常的な様子は好評である。今後も情報発信の回数を増やすよう努めていく。
- ⑨ 危機管理トレーニングの一環として、様々な場面に応じた避難訓練を実施し、防災の意識を高める。
A HUGを実施し、避難所運営について理解することができた。1学年は地域防災訓練に参加し、災害時の行動を体験することができた。次年度も継続する。
- ⑩ 地域の文化を理解し、将来の恩方地区を見据えた地域街づくりと連携する。
A 地域の特色や資産や環境を生かした教育活動を推進することができた。
- ⑪ 金融教育を推進し、生徒の将来を見据えた取組を展開する。
A 講師を招聘し、計画的に金融教育を実施した。次年度も継続する。
- ⑫ 「地域とともに作る北海道修学旅行」を推進する。
A 今年度より北海道方面の修学旅行を実施し、姉妹校との交流やアイヌに関する学習を取り入れ、人権教育を推進した。